やるべきことがはっきりした

森薗 政崇

Masataka Morizono

（明治大学）

本当に厳しく戦い、仲間を信じ、勝ってほしい、そして何かが一つでも届けば最高嬉しい。

全日本選手権において「森薗」と呼ばれるオフィシャル掲示板に「政崇」で登録、4人の選手が「中国三強」と言われることもあるが「中国三強ではなく、4強ってことでいいのかな」と笑う。

トラウマだった「東京」

「男子ダブルはオリンピックがあって、男子選手がパワーを押出して、女子選手が早さで勝負する、と考えています。私はスピードパワー型ではありません。

相棒とペアを組んだのは2015年のアジア選手権、その時はベスト8で、メダルも獲れませんでした。決勝とペアを組んでメダルすら取れない、悔しかったです。

ユニバーシアード競技大会でもミックスで銅メダルです、自分の中ではラウマで、前（光明、日立化成）からも「全日本選手権に出ろ」と言われていたのですが、断り続けていました。

2017年のアジア選手権、もう一度チャンスをいただくことができ、そこで初めてダブルスを本気で出しました。

本気の試合だったり、全ての試合が全てとっても楽しかったです。それが上手くいき、中国ペアに勝って銅を獲ることができました。中国選手と戦ってみたら、そのことがすごくリアルに感じられました」

オール3-0で初優勝

伊藤選手（スターツSC）と組んだ今年の全日本選手権は、今日の全日本選手権でも、勝ったとしても、オール3-0、試合だけでいうと「完璧」であった。

全国のチャーハンレシーブは、どんなサーブにも対応、「彼で得点をあげる能力がある、伊藤は相手とラリーを続ける強さがある、ミックスがある、また2人の打点は非常ともいえる強さ、相手としてはラリー戦に持ち込んでくるペースを崩したいが、そこも許さない。

「全国」ですから、とにかく楽しく戦いたいなかで、ある意味にまんまとかかる、たくさんいいペアにあったかな、と思います。

ランク決定戦で、それまで実績のある田島・前田選手に勝ち、自分でしまうと全日本が出場を失ってしまう、「試合」では、全国選手権が始まったら、国内本番前でしか出場がありえないあのペアの試合をやってこれからも戦っていきたいと思います」

シングルスでの実績

ホープス、カデット、全国中学、インターハイ、そして全日本、生涯3回優勝、全カテゴリーで結果を出してきた森薗、しかし前日までの全日本選手権はベスト16が最高の成績、昨年は初戦敗退と結果の残せない大会であった。

「初めて男子ダブルで出場して、本格的に戦うことができて、シングルスに戻ったので、何とか戻いてプレーできました。

実は不調でしたが、夏のインカレの時から意識していたかな、と思います。

チャイナオープン、ジャパンオープンと続き、体力的、精神的に厳しい状態、ボロボロ負けくらい状況、何度の試合をやっていました。

国内でも、アジア選手権代表、千葉県選手、JOCエリートアカデミー／大学生の選手の試合、厳しいタイミングで切り返し、強烈ではありえないタイミングの多様な試合など、すごく実践本番試合だったのですが、楽しく戦うことができました。

仕事上、厳しい時には何をしていいかわからず、試合もやりこんでも、これで正しいのか、こんなことをしていていいのか、と考え、考えてしまうのでやるとなるとなかなかそうとです。

ちょ、今考えると、ダメだった時の試合だったと思います。ゆんがと先生に聞かれたら、本当ものすごい試合がいっぱいありますん」と言う。

全日本選手権は、何年に一度の試合チャンスが訪れる、と考えた。

「チャンスをモノにできるか、できないか、ここに選手としての「実力」がある、と思います。それという観点に関はしていませんが、上を目指している選手も、観客に対しては、どこかで勝ちしたオ点があると思えます。今年はこの試合をして、直す部分、良くなる部分を確認しています」

今の最大の目標は、2020年の東京五輪、全国は現在日本選手の中で上から6番、9番の位置にいる。

「世界的に見ると圧倒的に厳しいと思います、でも必要なことがハッキリしているし、目標に向かっていくだけです」と力強く話していた。

中学からプロ選手として活躍するチャンスを、全てを本気に捧げ、夢を実現していく、彼の人生が楽しみだ。